

「教育と公共」研究部会（第1回）

日時：2019年4月12日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧スペース

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

欠席：狩野浩二

内容：（1）吉久所長と、田嶋一リーダーから挨拶

- ・先行研究や参考文献の紹介などで時間を取りすぎず、各自の研究経過の発表を重点的にしてもらえればと思う（吉久）
- ・進行役、座長は前研究部会の流れを知っている田嶋研究員にやってもらう
- ・進め方については全員で話し合っ決めていきたいが、今回と次回は各研究員から提出済みの研究計画についての説明にあてる
- ・各研究員から、全員で読んでおいたほうがいい参考文献なども推薦してもらう

（2）上野正道研究員の研究計画：教育の公共性とデモクラシー

- ・具体的には以下の三つから研究テーマを絞って進めていきたい
 - ①デューイ以後の教育の公共性と民主主義に関する研究
 - ②東アジアにおけるデューイの「民主主義と教育」の受容と展開についての研究
 - ③「グローバル・シティズンシップ」と「公共」（高校社会）のカリキュラムの研究
- ・先行研究・参考文献：佐々木毅・金泰昌編『公共哲学1 公と私の思想史』（東京大学出版会、2001年）／齋藤純一編『公共性をめぐる政治思想』（おうふう、2010年）／山脇直司・押村高編『アクセス公共学』（日本経済評論社、2010年）／『思想 公共I』（岩波書店、2019年3月号）／『思想 公共II』（岩波書店、2019年4月号）

（3）田嶋一研究員の研究計画：日本社会における「教育と公共」の社会史

- ・日本社会における教育をめぐる公概念、公共概念の構造とその成立の歴史的過程について考察
- ・その手がかりとしてモノグラフの構想：番組小学校・郷校を支えた公共的発想は？／自由民権運動と公教育思想・公共／自由民権期における教育制度の形成過程と教育への参加問題／公・公共概念の歴史性／大正期の新教育運動にみられる、公・私概念の作り直し／概念の転換／「地域に根ざす教育」運動に表れていた公共教育論の現代的な意味について考察
- ・検討してみたい先行研究：齋藤純一『公共性 publicness』（岩波書店、2000年）／黒崎勲「教育の公共性の検討と課題」（『日英教育研究フォーラム』2004年）／上野正道『学校の公共性と民主主義』（東京大学出版会、2010年）／田嶋一「日本社会における

公教育制度の成立と学校をめぐる社会的通年の形成過程（その1・国家の形成と公概念の形成）」（『國學院大學教育学研究室紀要』23号、1988）／このほか、先行研究一覧は別紙

（4）仲田康一研究員の研究計画：以下の二つから考えている

①コミュニティ・スクールの新しい展開

地域と学校の連携が推奨され、全国化しつつあるが、その可能性や実践について、現状と未来、可能性について探りたい

②イングランドの学校制度再編における公教育概念の位置と意味

2000年代に入って「総合制中等学校」の民営化が急速に進行しているが、そうした実態を調べ、公私境界の臨界にあるイングランドの学校制度を事例に、公教育概念の位置と意味を探る

- ・参考文献・先行研究：待鳥聡史・宇野重規『社会のなかのコモンズ：公共性を超えて』（白水社、2019年）／Gunter, H『The Politics on Public Education』（Poric Press、2018年）／山脇直司・押村高編『アクセス公共学』（日本経済評論社、2010年）／日本教育行政学会『日本教育行政学会年報』（教育行政と公共性をめぐる特集予定、2019年10月発刊）

・次回研究会は、5月10日13:00～。浅井・狩野・藤井研究員の研究計画発表